
絶対やってやるから！！

teruteru

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

絶対やってやるから！！

【Nコード】

N4482C

【作者名】

teruteru

【あらすじ】

計画だけでは意味がない！実行しなくては成功も失敗もない！そんなことはわかってるけど、やっぱり実行することはためらってしまう。いつも考えだけは1人前だけど、実行に移せない高校生タカの話。勉強に友達関係、そして恋愛などいつも悩んでばかり。ただどやるときはやらなきゃいけないでしょ！！

第1話 ヒロの話／授業（前書き）

作者の私がいつも計画ばかりで実行に移せないんです（＜ ＞；）
少しばかり私の人格に似てる気がします。いつも考えてるだけじゃ
駄目ですね^^；

第1話 ヒロの話／授業

弁当を食べ終えた後の、昼休み。

「なあ、ちよつと聞いてくれよ。昨日地元の友達とさあ、遊んでたんだよ。」

ガムをクチャクチャ食べながら、ヒロが話しかけてきた。

「そしたら、肩がぶつかっただって、文句つけてきた奴がいたんだ。」

「うんうん、それでどうしたの？」

適当な返事をしてる俺は、タカ。

あんまり興味がない話だけど、聞き返してあげた。

「もちろんボコボコにしてやったよ！ボツコボコ！」

「そんな骨と皮だけのお前が勝てるわけないだろ。嘘つくな、アホ！」

えっ、よく言っただったって？いや、これは俺の心の中の声。

本当の言葉は、「さすがだね。ヒロに目付けられたらやばいもんな。」

「そりゃそうだろ。ヤクザだつてぶっ倒してやるよ。」

『このペテン師野郎がつ！』

・・・なんて言える訳もない。

しょうがなく、延々と続くヒロの武勇伝を聞いてあげた。

周りの苦笑にも気付かないで、嬉しそうに話すヒロが、妙に馬鹿らしく見えた。

授業の始まりを告げるチャイムが鳴るまで、ヒロの武勇伝が続いた。

「ちつ。これから盛り上がるころなのによ。」

不満そうに、ヒロは自分の席へと戻った。

こんなにも授業が始まるのが、嬉しいと思ったのは始めてのことかもしれない。

チャイムというものがなかったら、ヒロは何時間でも話してたかも

しれないな・・・まじで。

先生が来て、淡々と授業が進められた。

「この問題わかるやついるか？少し難しいかもしれないな。」

みんな指されないようにと、沈黙に包まれた。

『あつ。この問題わかる！どうしよう、手を上げようかな・・・』
悩んでいたら、クラス1の秀才のマサが、スラスラと解いてしまった。

「すげえ！！」

「さすがあ」

クラスみんなの歓声に、恥ずかしそうに座るマサ。

『俺だつてわかってたのによ。ただ手を上げなかったただだよ。』
後悔している自分に対して、心の中で言い訳をしていた。

『なんか馬鹿らしいな、虚しくなってきたわ。』

その後、ずっと授業中に居眠りをしていた。

第1話 ヒロの話／授業（後書き）

読んでいただいております

まだ1話だけで、只のダメ男にしか見えませんね^^；

これからも連載する予定です。

出来れば感想を書いてもらえれば嬉しいです。ってか助かりますって感じですw文章が下手だから意見を参考に頑張っていきたいので

第2話 ハカセのいじめ（前書き）

今回はいじめについて書いてみました。

第2話 ハカセのいじめ

ふう〜、疲れた。

午前の授業が終わって、今は昼の休憩中。

ヒロに誘われて、一緒に弁当を食べている。

いつも通り、嘘にしか聞こえない武勇伝を語ってるヒロ。

よくそんなにもでまかせが言えるもんだ。

適当に話を聞き、弁当を食べていたら、

「おい、ハカセ！カレーパンとミルクティー買ってくんねえ。」

「

「あつ、俺も買ってきて〜。」

と聞こえてきた。

「う、うん。いいけどお金は？」

「あゝ、今度返すから。早く買ってこいよ。」

「えっ・・・わかった。」

と言って、ハカセはそそくさと走っていった。

周りにいた奴はみんな、かわいそうという風に見てるだけ。

昼食の時のいつもの光景。

ハカセと呼ばれている奴の名前はタダシ。

ヒロ口くて眼鏡をかけているからハカセ。

見た目と同じで気が弱いから、すぐにいじめの標的になり、いつも

パシリにされている。

もちろん金なんて返してもらったことないだろうな。

「いじめとかさあ、マジでむかつくんだけど。」

ヒロは聞こえないように小声で、俺に言ってきた。

「うん。そうだね。」

俺も正直、いじめは嫌いだ。

なんで高校生にもなって、こんな醜いことをするんだと思う。

昼食くらい自分で買えばいいし、イライラしてるなら人にあたらない

くて、

なんか趣味とかにぶつければいいじゃんか！！いじめなんて、めんどくさいだけだろう。

「俺、あいつらぶちのめしてこようかな。」

『お前、本当に口だけだな！出来るならやってこいよ。』
なんて、いつも通り言えるわけないんだけどね。

ただ口だけしか言えないこいつが、少しむかつく・・・それも小声つてのが更に気に触る。

はあはあと、息を切らせながらハカセが帰ってきた。

何も言わず、命令してた奴らが取って行って、バイバイと手を振った。

ハカセは自分の席へ戻り、一人で弁当を食べ始めた。
寂しそうな後姿に、同情したくなる。

『一緒に食べようよ。』

と誘ったら、ハカセはどれだけ喜ぶかな。

でも、もしそれが原因で俺も標的にされたら・・・

また考えるだけで、何もしない自分。

さっきヒ口にもかついたけど、俺も一緒なのかな。

弁当を食べ終えて、逃げるように教室から出た。

第2話 ハカセのいじめ（後書き）

読んでくださってありがとうございます。

出来れば感想を書いてもらえると嬉しいです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4482c/>

絶対やってやるから！！

2010年10月20日20時45分発行